

平成 29 年度 第 4 回伊豆市教育振興審議会会議録

- 開催日時 平成 29 年 12 月 21 日（木）午後 7 時 15 分～午後 8 時 45 分
- 開催場所 伊豆市役所 別館 2F 大会議室
- 出席委員 菊地篤子会長、澤木育子委員、鈴木和仁委員、鈴木浩二委員、鈴木洋一委員、金子歩美委員、井澤彩香委員、原勝也委員、鈴木千秋委員、藤江康彦臨時委員、菊池之利臨時委員【11 名】
- 欠席委員 勝呂義衛副会長、石井美香委員、小笠原茂委員【3 名】
- 事務局 西井教育長、金刺教育部長、菊地統括監、城所教育総務課長、若月指導主事、鈴木主任

1 開会

ただいまより第 4 回伊豆市教育振興審議会を開会いたします。

2 会長挨拶

前回の審議会から一ヶ月も経たないうちにもう一度集まることになる。基本的には折り返しの地点という位置にあり、ここまでの整理整頓をしながら次に向けて繋げていきたいのでお願いします。

3 議事

(1) 確認事項 課題の整理と共有について

事務局

資料 1 に現時点での意見を纏めてあります。

会長

前回、中伊豆中学校長から、近い将来単学級になる可能性があることと、生徒の 1～2 名の増減でクラスの数が変わる可能性があるという話があった。修善寺中学校長からは、特別支援学級の話があった。特別支援学級は天城中学校、中伊豆中学校にはないので、既に現在も天城・中伊豆地区から通学してきている。それが毎年数名あるという可能性を考えると、中伊豆中学校が 1～2 名減るとするのが現実的な考えではないかと思う。

委員

天城中の施設はいろいろ悪くて被災する機会が多いと思うが、どのような状況か。

事務局

雨漏りの状況は天城中より、中伊豆中の方が悪い。

委員

過去にはグラウンドの体育館側が崩れているが

事務局

地震があった時に被害にあったが、グラウンドを使うのはサッカーしかなく、サッカーも学校側を使っているので影響はない。テニスコートも問題はない。体育館は時々雨漏りがある。

会長

時々というのは年に何回くらいか。

事務局

雨の向きにより漏れることがある。台風の際は殆ど雨漏りがあり、報告を貰って修理をしたりするが、屋根は水が回ってくるという状況があるので難しい。大雨の時には雨漏りが通常的にある。

委員

今までこの会議でやってきた事を考えると、今後どのように持って行くかが大切だと思う。中学校を統合するのかもしれないのか。壊れた施設を直してやるのかやらないのかを話合わないといけないと次の発言がなかなか出来ない。

会長

その通りだと思う。そこをやるために年内に意見を出し切り、1月には道を明らかにできるようにしたいと思う。

委員

保護司会で聞いてみたところ、現状では統合しないと子ども達が可哀想だという意見が多かった。熊坂小学校区の区長会では、中伊豆や天城の人達は今のままではしょうがないといって他の市町へ出て行ってしまおう、このまま続けていったらどうなるのかと非常に心配をしていた。それを最小限にするのは統合しかないということが意見としてあった。

委員

来年度中伊豆小学校は12学級あるが35人学級のおかげであり、中伊豆小の3年生、5年生、6年生は40人を切っている。

委員

小学校との接続をどのようにしているのか。1小学校が1中学校に上がって行くので、9年間同じ人間関係の中での問題や学習支援についてどのような工夫をされているのか伺いたい。残すことの良さ、統合することの良さ、中学校のことだけでなく、小学校の教育環境も含めて考えていかないといけない。

委員

小中の連携はどこの地区でもやっている。子ども同士の繋がりもそうだし、教員同士の繋がりもそうである。今年の運動会では中学生が手伝いに来てくれて一緒にやってくれた。中伊豆中学校で行われる合唱会には6年生が全員で行き、中学生に刺激を受けて帰ってきたりもする。入学説明会の時には、授業や部活を見せて貰ったりしている。教員は夏に中学校、小学校、こども園の先生が集まって、学習、生活、生徒指

導の3つの活動の部会で、こども園ではこのようにしてもらいたい、小学校ではこのようにやっている、中学校にあげるのにはこうやっていった方がいいなど、それぞれが繋がってやれることはないか話し合いを行っている。中学生の生徒会の活動の中で交通安全ボランティアというのがあり、それに6年生が朝早くから参加している。そのように小学校と中学校の繋がりは色々ある。こども園から全部同じこども達をみているので、全部と繋がりを持って、いろいろな事をやっている。

会長

鈴木浩二委員は修善寺南小にもいらしたと思うが、修善寺中学校と修善寺地区の小学校でも同じような取り組みが可能か。

委員

小・中の先生方の集まりは、中伊豆は全員で、修善寺は回数は多いが、代表の先生方でやっている。防災の関係の引き渡し訓練は、こども園、小学校、中学校で連携をとっており、どこの地区でも繋がりを持っている。

会長

小学校から中学校9年間同じクラスということが天城中の資料にあるが、こども園からなので、長い子だと人生のほぼ全てを同じ集団で過ごして行くことになる。

委員

そのために園長、小学校長、中学校長が年間3回くらい集まって現状の話をしている。

会長

大人はそのような形でかなり工夫しているが、こども達のメンバーは変わらないという中で、中伊豆中、天城中の生徒教育環境の課題が出てきているのではないか。

委員

小規模だとある程度繋がりも出来るし、伊豆市はこども園から、小学校、中学校まで「目指すこどもの姿」というのがあり、更にブロックごとで地域の特色に見合って、挨拶を頑張りましょうとか家庭学習を頑張りましょうということで、こども園から、小学校、中学校、地域の中で話し合って、学校教育の中で活かしている。土肥については、こども園から伊豆総合高校の分校を含めて、園長、校長が集まり、地域のこどもたちをどのようにしていくのかということをやっている。

小規模になってくると、クラス数によって教員定数が決まっているので、6クラスあると教員が10人、5クラスになると8人になるので9教科の先生が揃わなくなる。そのため免許外指導が必要になってくる。免許外指導を解消することについては非常勤講師で対応しているが、「教員免許更新制度」等の問題があり、非常勤講師を探すのに苦慮する。

会長

部活動の事はどの学校でも言われていて、教員（顧問）の数ということで、責任問題やその顧問一人に何かあったら、という危機管理状況にあり、顧問を一人しか置けないということが危険な状況であると改めて感じた。文部科学省から教員が絶対にやらなければいけない仕事ではないことが発表された。登下校での支援や部活などが書

かれており、部活動や登下校の見守りを仕事としてはみてはいけないという時代なのかと思った。都会では課外活動を行うチャンスが多いので、部活動でない所で活躍している生徒が沢山いるが、この地域はそのような場がとても少なく、部活動がよりどころとなっている。学習状況も学校の先生方に頼るしかない。お金をかけて勉強する施設も周りにそんなに多くはないと考えると、伊豆市は伊豆市の中で全て解決しなければならないのかと思う。そう考えると運動面についても集団競技、人的環境、物的環境をある程度整えて行く必要があるということが出ているのではないかと感じた。先生方も、労働時間という数字的な問題では図りしれないないエネルギーの使い方が尋常ではないのかなと感じた。

委員

前回の3校長の話や会長の話聞いて、こどもにはこどもの今の環境のままでいいのかという問題点があり、教師は教師で学校の中での問題点が出てきたと思った。各学校では、こどもに対して前向きに教育をしてくださっていると思うが、小規模学校の問題点というのはすごくあり、前回沢山出てきた。こどもが進級していく喜び、希望を持って学校に携わっていくという気持ちを整えてあげることが一番大事なのではないかと改めて思った。一概に小規模校が全てデメリットであるとは思っていない。大きい学校がメリットが多いとかではなく、こどもが進級していく、中学校へ入る喜びや、部活動、学校の中で勉強していく喜びが持てる環境を作ることが一番大事なのではないかと思っている。

委員

「良い教育」とは何なのかをききたい。

会長

私の仕事の立場から言うと、短期大学で保育者養成の仕事をしているので、学生達にいい保育者になってもらうような教育をしているが、生きる力、偏差値などではなく、人生長期的に見据えてその人が生きる力が定着できることを支援できる教員を育てることが私の良い教育。幼稚園教育の5領域というものが育まれるのが良い教育と考えている。

委員

こどもが社会人として自分なりの希望を持ち、自分なりの責任を持って生きていけるような基礎を作ることができると、できるだけ多くの体験をさせてあげることができてきた。それが良い教育なのではないかと思ったりやっていたのではないかと思っている。

委員

今の大学では研究をしているが、前は小学校の教員養成をしていた。何が良いかという学校段階によって多少違ってくると思うが、義務教育段階の小中学校でいうと、豊かな、幸せな経験が学校の中で出来るということ。今の日本の教育は将来役に立つようなことを学ばせる。将来の幸せのために今の教育があるという考えが主流になりつつある。学び続けていく力や生きる力は勿論必要であるが、今の小学校、中学校での経験ということが基盤になっているので、そのような経験が出来るということが大

事だと思う。良い教育というのは、こどもが幸せに学ぶことができるということだと思ふ。

委員

良い教育、生きる力とか幸せに学ぶためには何が必要かということになる。教育するには人だと思ふ。良い教員がいなければ、良い教育は出来ないと思ふ。このままいって、人がいなくなってしまうと良い教育が出来ない。学校では多かれ少なかれ、学校の先生の影響を受ける。できれば良い先生から影響を受けたい。それが良い教育だと思ふ。専門の先生に習うということは大きい。それが良い教育に値すると思ふ。

委員

中学校段階では義務教育の最後になるので、将来社会に出て自立していくとか、目標に向かって頑張っていくとか、人間としての基盤を作るのがいい教育かと思ふ。知、徳、体のバランスをとりながら、いろいろな経験を、今は経験不足になっているので、学校で特別活動や行事を組まなければいけない。学校でお飾り作りをしたが、お飾りが藁で出来ている、稲だということがわからない生徒がいて認識を新たにされた。そのような体験不足がある。家庭、地域、学校が連携をとりながら、地域に開かれたというような、学校だけでなく地域と共にいろいろな経験をさせていながら、人間としての基盤が出来るような教育が出来ればと思っている。当然、人が人に教育するという人も環境であるし、施設もそうであるが、人も教育環境であると考えている。

委員

保護者の思う「良い教育」と教育者の思う「良い教育」とでは、開きがあるのかと思ひ聞きたかった。人を育てるとか、生きる力、それは家庭教育でもやるべきだと思ひっていて、自分のこどもには悪いことは悪い、やってはいけないことはやってはいけない、どうやって生き抜いていくのかということ、スポーツも大切だし、勉強でも沢山あるということ、今もいっているし、言ってきた。私としてはあまり開きがなかったのが良かったと思ひた。

会長

今回考えているのは学校教育のことになるので、今言ったことにプラスα、教科教育、専門教育が入った中で考えていかなければならない。これは、もう一段回上のブロックかなと思ふ。

委員

1回目の審議会の時に会長が、「こどものための良い教育を」と言っていたので、「良い教育とは何なのか」ということをずっと思ひていた。良い教育を受けさせたいと思ふのは当然のことであるので、そこに向かうに当たって、そこがしっかりしていないと、良い教育の共通認識がないと大変なのではないかと思ひていたので聞いてみた。

会長

良い教育というよりは「望ましい教育」という言い方をしたと思ふ。良い、悪いを決めるのはすごく難しく、自分が歳をとった時に思ふ事だと思ふ。望ましい教育というのを考えるのがこの会だと思ひていた。ここまでの事を踏まえて、次にどのようにしていくかを考えて行きたいと思ふ。

(2) 中学生の教育環境改善にむけた意見を聞く会の実施について

事務局

当初から、多くの市民の方々からいろいろな意見を聞くということが大きな課題であり、そのためには学校の現場や教育についての意見をいただきながら、考えていただきたい。資料2の☆はこれまでの委員から意見等を纏めたものですが、「意見を聞く会」について今回、次回の審議会でもどのような方法があるかを検討していただきたい。

会長

市民や関係者から教育環境について意見を聞く会を開いていかなければならない。資料2にある目的からは、広くいろいろな方々から意見を聞くということで、私達が答申に向けての判断資料を得ていくということになる。これでよろしいか。テーマや方向性が難しく、私達が質疑応答に答えるのではなく、どのような意見があるのかを聴いていく場となる。案として、「中学校のあるべき教育環境についてをきいていきましょう」とあるが抽象的なので、もう少し具体的にどうあるべきかを考えられるようなテーマをここで提示すべきなのか、このままにしておいて意見を聞く中でそれを明らかにしていくのかを考えていきたい。

委員

ホール等に大勢を集めて開催する予定なのか、中学校単位、小学校単位で開催する予定なのか。

事務局

そのあたりの検討はしていなくて、より多くの意見がどのような形であれば出やすいのか、答えを出し切れていない。委員の方々の意見もあったり、アンケートなどの方法もある。より多くの声を聴くことが前提であり、規模等についてはまだ決まっていない。

会長

③の実施対象という所では3地区での開催が基本となっているが。

委員

それによってテーマが変わるのかなと思った。この場でも意見を言うようにいわれても、なかなか思ったように意見を言えない状況にある中で、全く知らない人が大勢いる中で、あんなふうに言っていたとか言われてしまうと思うと本音の意見は出にくいのではないかと思う。この会で上手くできるようなテーマを掲げてもなかなかいい意見収集はできないのかと思う。規模は、天城小に通っていて天城中に通うと思われる保護者などというような規模にしたら、テーマが変わったりするのではないかと思われる。中学校区くらいの集団の方が親同士も知っている仲であるので、生の意見が出やすいのではないかと思う。まず初めは小さくてもいいので生の意見をあげてもらおう。そうするとテーマも絞ったテーマでいけるのではないか。大勢でやるのであれば広いテーマでやるのではないかと思う。

会長

天城、中伊豆については中学校規模で絞ったテーマでいけるのではないかと思うが、修善寺中学校区となると話は違ってくるので、分けなければいけないのかと思う。保

護者が話をしやすいのは小学校単位かと思う。

委員

一番大事なのは、関心があっても意見の出し方がわからないという人の意見もきちんと汲み上げないと意味がない。

委員

先ほどの意見にあるように、小学校区ごとの小規模単位でやるのがいいと思う。市全体でやったとしても、なかなかその場で、意見や思いを伝えるのは難しい。委員は毎回全員揃わなくても、2人ずつとか参加できるようにして膝を交えることが必要。テーマは最初から具体的な細かい点を決めてしまうと、そのことだけに意見が集中してしまう。なるべく大きな枠にしておけば、大きな意見も出るし、それぞれ個別の意見も出るのではいいのではないか。保護者だけでなく地域の方も対象なので、具体的なテーマにしてしまうと、保護者のように直接関わっていないと意見も出しにくくなる。

委員

具体的なテーマにしてしまうと、一人大きな声で言う人がいると、そちらに流れるという可能性もあり、それしか話が出来ない、意見があるのに出せない状況が出てくると思う。意見を出せるような状況を作るためにも、今の学校で満足している事や、困っている事、改善してもらいたい事などを同じようなレベルできいていけば、少しは意見が聴けるのではないか。地域との関わりとなると、天城・中伊豆は上手く関わって、支援してくれている。しかし統合してしまうと、地域から遠くなってしまいうという感じが出てきてしまうのではないか。そういうことを考えると方向性としては、学校規模を大きくすることに反対をする意見も出てくるのではないか。そういう意見を聴いた方がいいので、提案の仕方を考えた方がいい。テーマを後にしても、提案の仕方を丁寧にしたらどうか。

会長

数年後に中学生になるこどもを持つ保護者が一番当事者意識があるのではないかとと思う。数年後に孫が地域に帰ってきてくれるのかという話を知り合いから聞いた。そう考えると上の世代の方からも意見をいただきたいと思う。

委員

こども園の保護者は話し合いなどをする場合、こどもを預ける場所がないと出来ない。市長との話し合いの時も教育部の保護者は一回帰って、再度こどもを連れて出かけるとなると面倒くさいという事になり実際に出てくる保護者は少ないので、こどもを預けている時間や延長保育をするなどの状況を作ってもらえれば、参加者が増えると思う。アンケートなどを紙ベースでやっても、こどもの世話でその時間すらないし、アンケートは必ず提出しなくてはいけないものでもないのに、回答率は低いと思う。私もそうであったが、これから3校統合しても昔の天城中レベルの3クラスしか出来ないという状況を分かっている人が多いと思う。大きくなったらクラスも5~6クラスあって、部活動の数も増えると思っている人が多いので、実際に数字で表して情報として伝えることも意見を聴くと同時に必要なのではないか。

委員

私も今の中学校の状況を情報として知らなかったもので、この場でいろいろな話をきいて状況がわかった。自分のこどもが中学校にいない限り、この情報は知らないことなので、みなさんからの意見を聴くだけでなく情報を伝えるのが大事だと思う。東こども園でも市長や議員との懇談会があったが出席率は低い。懇談会の開始時間には私1人しかおらず、園長が声掛けしてくれて、後から少し来てくれた感じであった。自分の意見を言うのは得意でもないし勇気もいるので、こども園の少人数でざっくりばらんに意見を言えたという状況であったので、小学校レベルでもそのくらいの方の方が本音に近いような意見が言えるのではないかと思う。

会長

きめ細かさが必要なのではという印象がある。同じ地区でも、こども園に通っているこどもを持つ保護者と小中学校に通っているこどもを持つ保護者の集まりやすい時間帯は違う。社会人だけの家族の場合も違う。相当回数を重ねていかないと皆さんに広くというのは均等にはいかないが、ある意味必要な部分。小学校単位であると6ないしは7で、時間帯は今後検討。アンケートの提示の仕方で工夫は可能かと思う。テーマの内容としては、今までの話の中で大きく分けて、質と環境というふうに分けられる。質というのは見えない部分ではあるがマンパワーでやってきたところがこれからどのように変化していくか、環境については雨漏りからはじまり、無駄な広さからそのようなものが全部入ってくると思う。テーマは大きいテーマで決めていく。

委員

具体的なテーマを挙げてあげないとなかなか出ないであろうし、あまり大きなテーマだと絞りきることができるか。

会長

話のもって行き方だと思う。事前にこのようなことを話合うということを出すだけでも、意見は出しやすいと思う。日本人の特色として集団では声が出ない。どのように改善していくかということで懇談会の進め方という資料もある。その中には事前に話し合いたいことを先に提示しておくということが一つの手段としてあるのと小規模のものを後で纏めて大きくしていくということがある。その辺りの具体的なことは年明けに決めて行く。実施対象としては小学生以下のこどもを持つ保護者、その他としては市民全体。地区や中学生、高校生等いろいろな枠、決め方がある。

委員

実施回数とどのくらいの規模を考えているのかに繋がって行くので、一年かけてやっていくのであれば沢山小規模からできると思うが、どれくらいの規模でやるかということである程度決まってくる。

会長

教育委員会としては、どのくらいを目安と考えているか。

部長

6月の請願を受けての今回の審議であるので、請願としては遠くない期限を設けて議論を深めていただきたいという表現があるが、そんなに時間はかけられない。目標

としては、来年の4月、5月頃という案であるが、時間的に無理ということであれば、それに拘るものではない。

会長

時期はそんなに長く持てない中で、どれだけ意見を集約するかということになる。対象は可能性としてあるのが、小学校単位の地区単位で全ての人が対象で、興味があれば高校生や、小学校4年生くらいも可能で、自分の行く学校は将来どのようなのだろうと思って興味を持ってきていただく可能性もある。枠としては地区で分けて年齢、所属で区切らないという方法もある。そうすると小学校からPTAに紙面を配ってという方法でなく、回覧板や広報での周知ということになる。

委員

そうすると時間帯は夜になると思うが、こども園の保護者はこどもを一人では留守番させることが出来ないのが難しいと思う。こども園にこどもを預かってもらえる時間帯にやってもらえるといいのではないかと思う。

会長

こども園の保護者を対象に、昼間1回大きな会場ということも出来る。

委員

修善寺から天城へ行ったりとなると大変だと思う。やはり3カ所で行った方がいい。1カ所だと役員が仕方なく参加するだけになってしまうと思う。多くの意見をきいてあげたい。

委員

こども園の保護者は中学はまだ先という考えや、こどもが居ない時には自分のやりたいことをやりたいと思っているので、強制にするのはよくないが、そのままだと集まりはよくないと思う。

委員

こども園の保護者に対しては、こども園に場所を提供してもらった方がいいのではないか。中学校をどうしたらいいのかということは遠い話ではあるが、小学校から始まる話ではあるので、テーマとしては中学校のあるべき教育環境についてであるが、もう少しこちら側の投げかけとして中学校がどうなるかということは、小学校から繋がる話であるということなので話をしやすいようにしたらいいのではないか。

委員

こども園の保護者は現実味がないような話をしていたので、この会議で今まで蓄積してきたことを教育委員会で纏めたり、現実問題としてこれから先の生徒数、クラス数の資料提供をすれば、現実問題を考えなくてはいけないと思うようになるのではないかと思う。今までの資料を分かり易く皆さんの公開することも大事なのではないか。

委員

あまり数字を並べても良くない。近い将来の1つでもいいので、分かり易い資料にしてもらえれば、読もうと思う。集まるのも、こどもを送ったそのまま9時からとかにした方がそのまま参加できるのでいいのではないか。

委員

ここに参加してくれている保護者はいいが、他の人は興味がないので決めてくれればいいと思っている。小学校の総集会で、今の現状を理解してもらい、5年後、10年後の説明をするべきだと思う。そのようなことをまずして、興味を持ってもらうところからやらないと難しいと思う。父母ともに仕事も家庭もある中で時間を拘束されて、意見を言うようにいわれても厳しい。事前に資料を配っても目を通さない可能性もあるので、まずは現状と今後、こども園の方たちは6年経てば当事者になるということを理解してもらうことから始まる話だと思う。突然紙が配られても、こんなふうになるんだということが終わってしまうのが現実だと思う。まずは現状を理解して興味を持ってもらって、その上でやっていかないと難しいのではないかと思う。こども園だけでなく、小中学校の父母も忙しい。ここに参加するのに労力がかかり必要であるのに、それを考えるとどうなのか。2～3月だと区の総集会があるので、区長会を通じてその際に区民に説明をしていったら改めて集まってもらうよりもいいのではないかと思う。今はホームページにアップしているだけであるが、いろいろな媒体を使って保護者や市民にそのような問題があり、代表者が話し合いを行っているというところも知っていただかないと伝わらないと思う。私もこの会議で知ったことが沢山ある。前回の校長先生方の話をきいて教員が苦勞しているとか、5クラスになったら9教科あるのに教員が8人しかいないとか、もともとおかしいと思うがそのようなことさえ分からない。教員数が少なくなることによるデメリットも保護者には伝わらない。そのようなことを箇条書きで分かり易く現状を理解してもらえると、意見も色々出てくるのではないかと思う。

委員

こども園の場合は保護者が迎えに来た時に話をさせてもらったらどうか。

委員

迎えに来る時間はあまりにも違うので難しい。PTA総会であれば委任状も取るし、一番出席率が高い。

委員

集まらざるを得ない時にやらないと、迎えの時だと祖父母がお迎えの方もいるし、3時にお迎えの人もいるし、5時までとか時間外までとかの人もいて、聞いた聞かないということも出てくるので、やはり委任状を取れるような時にやらないと時間のずれは埋まらないし、事前に資料を提供して分かってもらうことをやって、そこで更に踏み込んで意見を集中したいので、こどものためにいい教育をさせていので意見をくださいということをもまずは保護者に理解をしてもらわないと難しいのではないか。

会長

第1段階で資料を配布する。いろいろな人の目に触れるような見やすい資料を用意し、声を出す場を設けるという2段階をなるべく細かい単位で出来るような工夫を教育委員会で作ってもらうことができるか。実施期間が2月・3月では無理ということであれば4月の中旬。

委員

区の総会では進行する人が理解をしていないと、どのような意見を言うかわからないので、すごく難しいと思う。

委員

区の総会は8時ころからお昼までで、その間に入れることは難しいと思う。

委員

一案として区の総集会有ると言っただけで、臨時集會を開くとか他にも方法がある。

委員

情報提供をする場と、意見を聴く会とは別。情報提供だけそのような皆さんが集まる場に出ささせていただいて、意見を聴く場があるということをお知らせして終わりにすればいい。

会長

把握しきれていないが区民として登録していない人もいるので、どの範囲でどのようにやれば色々な人に周知できるのか市の方で一番有効な方法でお願いしたい。

【配布資料の説明】

事務局

- ・新聞記事について（資料に沿って説明）
- ・今後の中学校のあり方について

第1回の会議で適正化についての資料を配布したが、その中から沢山のパターンはあると思うが、分かり易くするために、現状のまま、3校を2校にして1校残すパターン、3校の学校を1校にするパターンの参考資料で、これから適正規模、適正配置について議論していただくための資料と考えていただきたい。

委員

今後の中学校のあり方についての資料で2のパターンは、私は市外在住のためイメージが付きにくいがどうか。3番の天城中学校と修善寺中学校を再編し、中伊豆中学校を存続するという内容は、天城中学校と修善寺中学校を一つにして学校を二つにするという理解で良いか。再編というのは学区の見直しをするのか統合をするのか。

会長

学区の再編ではないということですよ。

委員

読み取る方は、地形的なことを考えないので分かりにくい。

事務局

分かり易い資料ということでもう一度整理をさせていただきたい。

委員

土肥のような小中一貫校というような提示はないのか。

教育長

小中一貫校というのは教育方法だと思う。1のパターンで行くということになったら、今のままで行くのか、小中一貫校か、義務教育学校かという選択肢を今から入れ

るのではなくて、1のパターンだったら入れる。2であっても3であっても分離型ではあるが、入れるか入れないかといことになる。今それを入れておくと細分化になってしまうので入れていない。

委員

1のパターンになった時に施設一体型の一貫校を目指そうかということになるのか。

教育長

1のパターンの中には選択肢としてある。それでやるのか、近くにあるが今まで通り別々にやるのか、教育方法なので色々な選択肢がある。

会長

今回は中学校のことを考えるということはぶれないようにしたい。中学校のあり方というのは、今まで話をしてきたものが図になったもので、2というのは初めて見たパターンだと思うが、県外に勤務している中で同僚に話をしてみたところ、小さい学校2つがくっついて1つになればいいと言われた。間に山もあり地理的な問題が大きいし、住んでいないと分からない部分がある。

委員

意見を聞く会の趣旨は、答申のための資料を作ることが主であるということが良いか。こども園の代表の方、地域の方から話を聞いて、いろいろ聞くと認識が違ふと思う。意見が出てきたらかみ合わない部分が出てくると思う。それを纏めようとした場合にはなかなか出来ない事であるので、ある程度言いたいことを言っていただき、それに対しての回答に関しては、事務的な言わなければいけないことは伝えるが伝えなくてもいいということでない、このような意見があったのでこの委員会としては、このような方法で進めていったらどうかという答申をすることで良いか。

事務局

委員の方々がそれぞれの立場で意見を聞いていただくことが一番大きな目的。当然、それによってどこまで答申が纏まるかということが、これからこの中で議論する。その答申を見て、更に教育委員会で改めて案を作って地区を回って意見を伺うということを考えている。

会長

この第4回目の審議会の前にタイトルを「意見を聞く会」にするのか、「意見交換会」にするのか、「情報提供」なのか等あった。意見交換会は違うのではないかということ、意見を聞くというタイトルにした経緯があり、そのような意味合いでその場で答えを出したり集約したりするという意味ではなく、色々な情報をいただく場と考えていきたいと思う。ただ同時進行で他のこともやっていかなければならないので、ご協力をお願いしたい。

4 次回第5回伊豆市教育振興審議会の開催について

第5回の開催は、1月19日（金）19時15分から別館会議室に決定

5 閉会 午後8時45分